

# 吾妻山行報告

2011 年 2 月 20 日(日) - 23 日(水)

M4 只左一也

2 月 20 日(日) : 高尾→(J R 各駅停車)→福島→(バス)→14:40 土湯温泉 15:30→17:00 登山口 (幕営)

2 月 21 日(月) : 登山口 6:30→高山の手前で撤退 13:00→15:30 土湯 16:45→(バス)→  
→17:30 福島 19:10→(J R)→20:00 米沢(ホテル泊)

2 月 22 日(火) : 米沢 8:10→(バス)→9:00 白布温泉→(ロープウェイ・リフト)  
→10:00 北望台→西吾妻山→12:20 西吾妻小屋→西大嶺往復(小屋泊)

2 月 23 日(水) : 避難小屋 6:00→西吾妻山→9:00 天元台スキー場→(ロープウェイ)→  
→白布温泉 10:00→(バス)→10:40 米沢 13:10→(J R)→20:00 高尾

**20 日(日) :** 国家試験から解放されて、久々の山は以前から考えていた福島山形県境の吾妻連峰縦走を選んだ。最大の目的は、西吾妻の樹氷と、西吾妻からの飯豊や朝日連峰の眺めである。2 か月ぶりの山で、天気もしばらく好いという予報だったので、存分に雪山の縦走を楽しむつもりだった。早朝、重い荷物を背負って、高尾から各駅停車を乗り継いで福島へ。予報通り、北へ向かうほど天気がよくなる。車窓から雪をかぶった那須連山、安達太良を眺めながら北上し、福島で土湯温泉行きのバスに乗る。終点で降りて荷造りをし、雪で埋まった林道を進み、登山口あたりでテントを張る。

**21 日(月) :** 朝から雲一つない快晴。スノーシューでなだらかな斜面を登って行く。スノーシューで登れるほど傾斜が緩いのだが、この 2 か月のブランクで体力がひどく落ちたようで、身体が全然前に進まない。スノーシューを履いているおかげで雪にも潜らず歩けるのだが、体力不足だけでなく体調もいま一つで、数歩歩いては立ち止まって息をつかなければならないほどで非常に苦しい。昼を過ぎて予定の半分も進まない。高山の急斜面の手前で立ち止まってしまった。これでは、予備日を使っても今回の縦走の目的地である西吾妻までたどり着けそうもない。あと 2 日はこのような最高の天気が続きそうなので、西吾妻の樹氷や飯豊・朝日連峰の眺めを楽しまずに帰るのはあまりにももったいない(樹氷が見られるのは東西に延びる吾妻連峰の西側だけ。飯豊や朝日連峰も西に行くほど近くなって眺めがよくなる)。そこで、今回は縦走をあきらめ、引き返して電車で下山口の米沢まで移動して、スキー場のロープウェイ・リフトで西吾妻の稜線近くまで上がって計画の最後の部分だけを楽しむことにした。そう決めて土湯まで引き返してバスに乗り、電車で米沢に移動した。いつものごとく恥も外聞もなく駅前で寝袋を敷いて寝ようと思ったが、人通りが多く、雪が多くてスペースもない。うろうろ場所を探す寝るのにいいところがなく、「シングル 1 泊 4700」という看板につられてついビジネスホテルに泊ってしまった。

**22 日(火) :** この日も朝から最高の天気である。ホテルの窓から西を眺めると、雪に覆われた周囲の山々の眺めがなかなかいい。米沢駅から始発バスで白布温泉に向い、ロープウェイで天元台スキー場に上がる。飯豊、朝日連峰、月山、蔵王連峰、そして鳥海山と、素晴らしい眺めが待っていた。リフトで標高 1800m の北望台まで一気に上がる。スノーシューを履いて、シラビソの原生林の間を 30 分も登ると、だだっぴろい稜線に出た。ここ

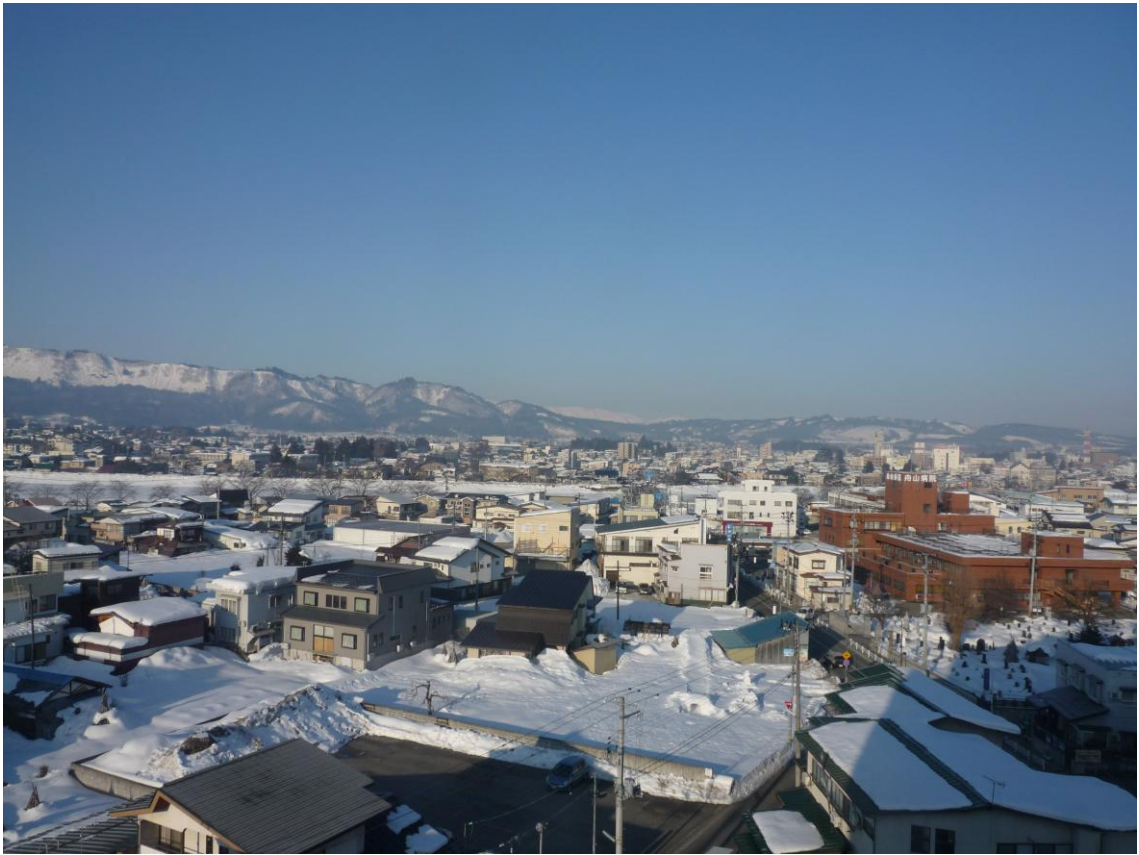
の名物の樹氷は、最近の温かさのせいで雪が少し解け、中の樹の枝が顔を覗かせてまだら模様になっていたが、それはそれでまたなかなか風情があつていい。そよとも風が吹かず、雲ひとつない紺碧の空の下、遠くの山々の眺めを楽しみながら、ふかふかの雪のなだらかな斜面をのんびり歩く……。これ以上ない雪上漫步となった。縦走をさっさとあきらめ、西吾妻に来て本当によかった。

雪原の上を気ままなコースでのんびり2時間歩いて、広い西吾妻山頂に着いた。標識は雪に埋もれていたようで、分からなかった。山頂からは、北には蔵王、鳥海・月山、朝日連峰、飯豊連峰、東には安達太良連山、南にはすぐ近くに磐梯山と猪苗代湖、そして遠くに那須、日光、尾瀬、越後の山々……。この素晴らしい眺めを存分に楽しみ、山頂のすぐ西にある避難小屋に荷物を置き、西大嶺を往復。この日は、日が沈むまで全く雲が出ない、最高の天気だった。これほどの天気だったが、小屋は私一人だけだった。

**23 日(水)**：この日もまた朝から快晴。これで、土曜から5日連続で快晴が続いている。日の出に合わせて準備して小屋を出発。西吾妻山頂で日の出を迎えた。前日同様、素晴らしい景色が広がる。人の歩いていないルートをとって気ままに歩く。ここはウサギの足跡が非常に多い。夜、たくさんのウサギがこの雪原を走りまわっているようである。他の小動物の足跡もたくさん見られる。この一帯は、大変自然が濃い。前日登って来たルートを引き返し、リフト終点到8時前に着いたがリフトはまだ動いていない。スキー場の脇の樹林帯の中を下る。雪がふかふかで本当に気持ちがいい。1時間でスキー場の下まで下り、ロープウェイに乗った。スキー場の人たちの話では、2月にこれほどの天気は何日も続くのは何十年も働いていて初めて、ということだった。麓の日帰り温泉施設は残念ながら定休日だったので、汗を流すことはできなかった。バスで米沢駅まで出て、また各駅停車を乗り継いで、東京に戻った。



高山(1804m)までなだらかな登り。体力不足で縦走は断念。



ホテルから西の眺め。米沢も 1 月までは非常に雪が多かったようである。



天元台スキー場から眺める飯豊連峰



リフト終点から南の眺め。中央は月山、その左は朝日連峰。この天元台スキー場は非常に眺めが好い。



飯豊連峰



リフト終点からわずか 30 分で吾妻連峰の稜線に出る。最近の温かさで、樹氷はかなり溶けてしまっていた。



東の方は雪が少なく、黒々とした感じ



吾妻連峰の最高峰、西吾妻山(2035m)はなだらかな山



西吾妻山頂は広い



山頂の西には雄大な飯豊連峰。前の建物は西吾妻避難小屋。



朝日連峰(中央)と月山(その右)。月山のすぐ右には鳥海山まで見える。



西大嶺



西吾妻山頂付近の樹氷



この日、避難小屋は私一人だけだった



小屋に荷物を置いて西大嶺を往復する



西大嶺から磐梯山と猪苗代湖



安達太良



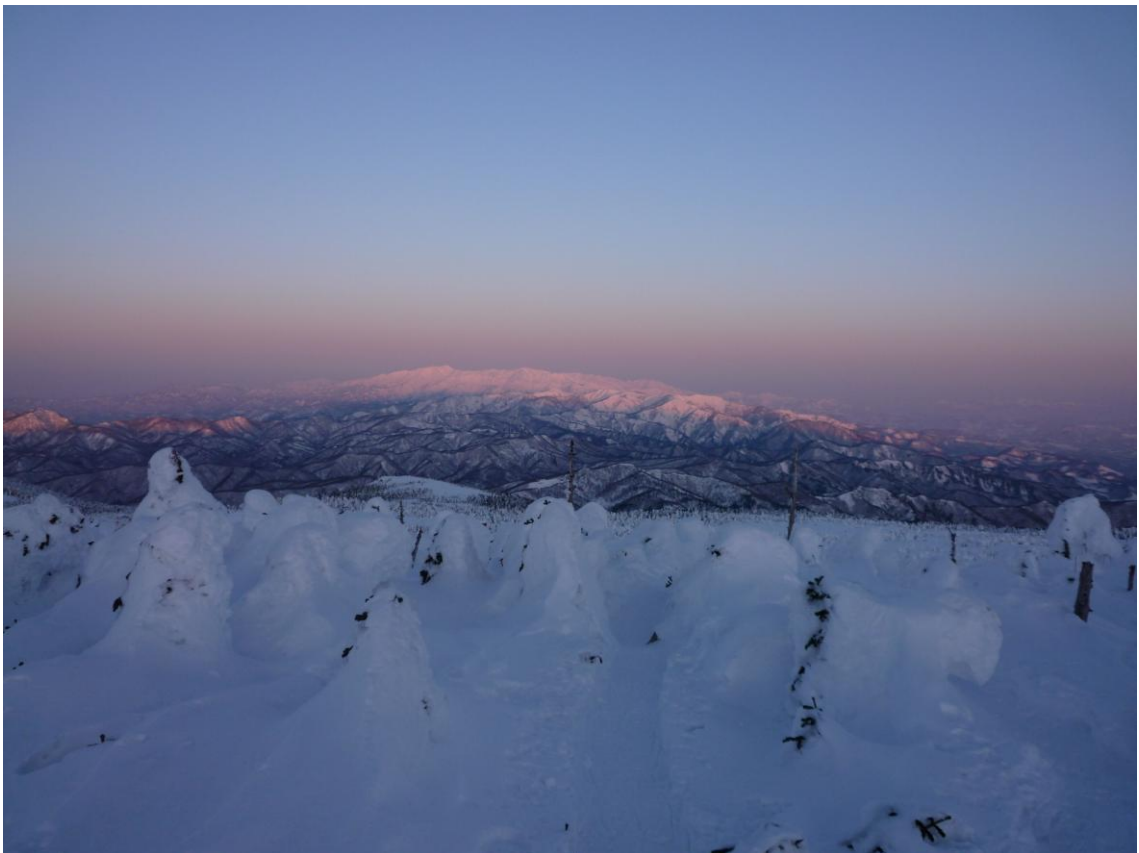
西大嶺から西吾妻山を振り返る



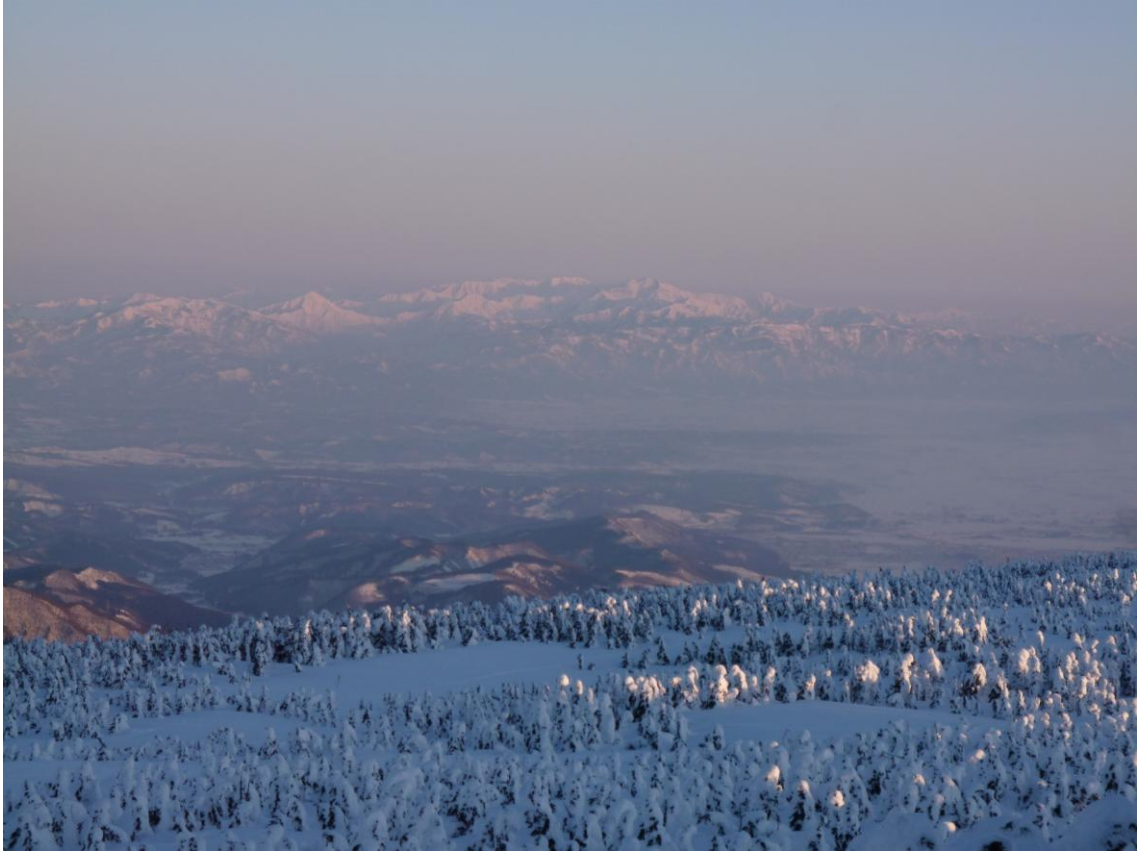
ふかふかの雪に覆われたまっしろ無垢な雪原を自由に歩き回るのは本当に楽しい



西吾妻山頂に登って夕陽を眺める



早朝の飯豊



朝日連峰



磐梯山。遠くは左が那須、右が日光。



吾妻はこのようななだらかな地形が広がる。視界が悪いと、非常に厳しい登山を強いられる。右奥は蔵王連山。



スキー場から眺める蔵王連山



吾妻はウサギが多い。あちこちウサギや小動物の足跡だらけ。